

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年 8月 28日

事業所名 放課後等デイサービスフロンテ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	評価や改善すべき点を確認した 改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1 利用定員が指導員室等スペースとの関係で適切である	◎		テーブル等で、活動内容によって行う場所を定めています。	さらに利用しやすいように緑巻などを適宜行う	
	2 職員の配置数は適切である	◎		児童発達支援管理責任者・児童指導員を基準に選んだ人数で配置しています。		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切にされている	◎		室内に段差等が出ないよう、設備の設置には考慮しています。	トイレや手洗いを改装して使いやすくなる	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	◎		会議等で支援の振り返りや課題などを話し合っています。		
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	◎		頂いた意見を参考にモニターングで検討しています。		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	◎		公開しています。		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	◎			必要に応じて、活用を検討します。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	◎		外部研修を告知し、参加した際は、職員間で情報共有致します。		
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	◎		契約時等に聞き取りを行い、ニーズや目標を共有し、支援計画を作成しています。	支援計画を立て直すときも、保護者からの聞き取りの時間や機会を増やすようにスケジュールを立てる	
	10 子どもと保護者の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	◎		使用しています。適時アセスメントの更新も行うようにしています。		
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	◎		ミーティングを行い、職員間で教育内容を検討しています。	リーダー等を導入し、教育プログラムが偏らないように配慮している	
適切な支援の提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	◎		季節の変化や、子どもの状況に応じ、活動プログラムを考案しています。	情報収集し新しいプログラムを取り入れるように心がけている	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	◎		休日、長期休暇に提供出来ないような活動を行うようにしています。		
	14 子どもと保護者の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	◎		子どもの状況や成長に応じ、内容を配慮して作成しています。		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	◎		始業時に、利用人数、その日のメンバー確認、連絡事項の共有の上、担当を決めています。		
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	◎		緊急の連絡はオンラインにて、通常の連絡は翌日始業時に行っています。		
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	◎		日報・個人記録に支援の実施を記入し、進行状況の把握に努めています。	記録内容の検索性、データの補完を再デジタル化を推進している	
	18 定期的にモニターングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	◎		半年ごとに計画の計画・立案・作成を行っています。		
	19 ガイダンスの原則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	◎		子どもに応じ、活動内容を考慮し支援を行っています。		
	関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	◎		児童発達支援管理責任者もしくは管理責任者が出席するようにしています。	
		21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	◎		保護者を通して、もしくは保護者の了承を得たうえで直接情報共有を行う。	
22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		◎			該当なし	
23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		◎		保護者を通して、もしくは保護者の了承を得たうえで直接情報共有を行う。		
24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		◎		保護者を通して、もしくは保護者の了承を得たうえで直接情報共有を行う。		
25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		◎		他事業所や西宮市から紹介頂いた外部研修に参加しています。		
26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		◎		今年度は実施機会がありませんでした。		
27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		◎		積極的に参加しています。		
28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		◎		送迎時やLINEを活用することによって随時共有出来るようにしています。		
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている		◎		保護者と児童についての情報共有や意見交換を随時行っています。		
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	◎		契約時と契約があった際に行います。		
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	◎		必要に応じて、育児相談、就学相談などの対応を行っています。		
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	◎		保護者の方を巻き込むための茶話会などを開催している。		
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	◎		苦情窓口を設けています。苦情には迅速に対応し業務で再発防止の検討を行います。		
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	◎		活動内容の報告や写真等をLINEを通じてお知らせ出来るようにしています。		
	35 個人情報に十分注意している	◎		個人情報保護マニュアルを作成しています。		
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	◎		本人にとって最も負担なく有効な意思の疎通の方法を考案しています。		
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	◎		行っていない。		
	非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	◎		職員には社内にマニュアルを積み積書を作成する事を義務付けています。	
		39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	◎		定期的に自衛消防訓練を行っています。	
40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		◎		定期的に虐待防止研修を行っています。		
41 どのような場合にもやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		◎		身体拘束についての講習会を開催し、周知徹底している。		
42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている		◎		医師の指示通り行っています。		
43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		◎		ヒヤリハットが起こった際は再発防止の検討を行っています。		